

撃沈	二〇	大破	一三一	小破	七七	二二八
爆撃を除けば	二〇		一一一		六六	二〇八

b 日本軍使用機 5409-930計2478
海軍攻撃機 (含特攻)

内 七九六機は基地攻撃
一三四機は六月以降の分
九三〇機
陸軍の攻撃機 (特攻のみ) 八七〇機

計 約 三三〇〇機

c 効率

沈 没	$\frac{20}{3,300} \parallel \frac{1}{165} \parallel 0.006$
沈、大破	$\frac{150}{3,300} \parallel \frac{1}{22} \parallel 0.045$
沈、大、小破	$\frac{230}{3,300} \parallel \frac{23}{330} \parallel 0.07$

Q 突入状況は

A 米艦隊の全高角砲の一斉射撃 (曳光弾) に依り日本軍の特攻機は其の弾幕に依り完全に阻止されるかに見えるが特攻機の多くは之を潜つて見事に艦船に突入する

Q 命中状況

A 當初殆ど全部が命中して敵艦が沈没して行く様に錯覺し歡喜した然し沖繩周辺の敵艦船が減少しない點から逐次疑念を抱き初めた

錯覺の原因は火柱、水煙等を見て命中と誤認したり命中を確認した場合即沈没と判断したりする所にあると思ふ

Q 32Aが當時特攻の戦果確認を相當大きく報告し屢々謝電を打電したのは誤認か

A 誤認の外は航空部隊の攻撃を希望すると共に之に同情し稍誇大に報告したことも否めなし

15. Q

一九四五年三月初めに^{32A}から飛行場破壊の意見具申が行はれたが其の破壊計畫と實施狀況如何

二〇

A

天號航空作戰計畫では南西諸島に約三〇〇機が四月末迄に展開する様になつて居た

^{32A}の判斷では米軍の來攻は三月にも必至と思はれた従つて破壊の必要を認められた

破壊計畫は飛行機用爆彈、其の他工専用ダイナマイト等を利用して約十日間使用不可能ならしむる計畫であつた

實施は伊江島は中央の認可を得て破壊した

本島の方は中央の認可が得られない爲愈々米軍の上陸が決定的となつた場合破壊する用意であつたが實施は出來なかつた

Q 一九四四年七月捷號發令後新設した飛行場は

A 首里北方に陸軍秘密飛行場

小緑に 海軍

一

その他既計畫の飛行場を擴充完成した

16. Q

三月二三日米機動艦隊の沖縄攻撃を上陸の前兆と判斷したか

A 前兆ありと判斷した

17. Q

6/4軍の攻勢を中止した動機

A 軍參謀長は本來持久戰略の思想であつたが中央からの再三の督促を受けて止むを得ず攻勢の決心を採つたが心中不安を藏して居たと思はれる

個々新來敵輸送船團の情報を得たのを契機に即時本來希望する持久戰略に移る爲中止を決心したものと思はれる

18. Q

4/5 1/5の攻勢を中止は如何なる失敗の要素を確認して行はれたか

二一

A。死生の門、所述の通りである

唯伊藤大隊の契入成功の確認はし得なかつた

二日間互る攻勢を實行し大なる進展を見ず死傷續出の有様で
而も縱長兵力がなければ失敗と見るのが至當だと思ふ

Q。攻勢の損害、死生の門、に指示せられて居る數字は確認された
ものか誇張されては居ない

A。或はそんな點があるかも知れない

Q。24Dの戦力13は作戦開始以來の損害を累計されたものではない
か

A。その通りだ但し24Dは本攻勢開始迄に損耗の甚しかつたのは221丈
であつた

Q。人員損害七〇〇〇名は確認されたものか

A。當時の部隊の報告（若干誇張された點なきにしろらず）を綜合
概観したものだ（本質的には損害の度は同じだ）

Q。本攻勢失敗の原因は何か

A。攻勢の軸となるべき24Dは連日敵の猛攻を受けて押されて居る
部隊で之を支へるに精一杯で攻勢の準備をやる餘裕がなかつた
44Bの一五歩兵大隊は素質が悪く攻勢の爲の縱長兵力は僅か
素質の低い歩兵三大隊に過ぎない
砲兵の弾薬も不足であつた

Q。此の攻勢を實施して居なければ如何なる作戦経過を辿つたと考
へるか

A。首里の線に於て更に頑強な抵抗が出来たであらう
敵は攻撃を手古摺つて他正面に新上陸を企圖するに至つたであらう

19. Q。義烈挺身部隊は32Aの作戦に如何なる影響があつたか

A。北、中飛行場に多數の爆發を確認した
一兩日敵機の活動が低調であつた
軍の士氣を鼓舞した
大局には影響はなかつた

20. Q. 9Dの抽出が行はれなかつたら32Aの作戦は如何なる経緯を辿つたと考へるか

A. 第一次上陸部隊は撃破し得たと思ふ

- 。敵は嘉手納以外の正面（例へば湊川）にも上陸したであらうが
- 軍としては之に對應出来たであらう
- 。北、中飛行場を敵手に委することが著しく遅くなつたと思ふ
- 。従つて我が航空特攻作戦を有利にしたであらう
- 。上陸の初動に砲兵威力を遺憾なく發揮し得たであらう
- 。9Dが居ても結局は同一の結果になつたであらうと見る者もある
- が更に莫大なる損害を敵に與へ而も更に長期間抵抗が出来たであらう此の間米軍の決心變更等も起つたかも知れない

21.

Q. 19/6 32Aは關係各軍に訣別の轉報を打電したか

A. 打電した

Q. 最後の電報は何日打電したか

A. 二十二日夜である

Q. 軍司令官、参謀長の自決の時間は

A. 二十三日午前四時三十分

介錯した副官山口大尉も自決した

Q. 神参謀派遣に當り軍首脳部間に訓令の内容に就て研究されたことがあるか その内容は 與へられたる訓令

A. 研究されなかつた 神参謀は内地の飛行機の全力を沖縄に投入することを具申する抱負を持つて居た 特攻機の駆り立てが目的であつた

Q. 軍司令官、参謀長の辭世の歌著くは詩

A. 参謀長は自決の時ワイシャツの白地に次の詩を大書してあつた

義勇奉公忠則命盡

軍司令官の分は記憶しない、調査して通知する

Q 19/5 軍司令部は解散したのか

A 然らず

Q 参謀が脱出する計畫は軍司令官、参謀長の發意か

A 参謀の方からの提出か

A 藥丸参謀の計畫である、その計畫を八原高級参謀を経て参謀長に提出し参謀長が認可した

参謀長は各人に牛紙で墨書して任務を與へた

参謀長はかねがね生存將兵を本土の決戦に參與させて沖繩作戰の貴重なる體驗を以て奉公させたいと云つて居た

Q 参謀の中で最後迄軍司令官、参謀長と共に運命を偲びなすべしと主張したものはないか

A なかつた

Q 軍司令官、参謀長が自決する以前の19/5に参謀が脱出したのは

如何なる理由か

A 敵の壓迫が急であつたので19/5が脱出の最後の機會だと認め参謀長が之を命じた

Q 神参謀が8/5東京に行つたことが軍の参謀の脱出計畫の示唆になつた様なことはないか

A 無意識の間にその様を感作があつたかも知れぬ

17/5 参謀長は神参謀宛に

「貴官は派遣任務を遂行し得なかつた宜しく自決ナベシ」と自ら記案されたが其の後藥丸参謀の計畫提出を認可せらるるに及んで「貴官は本土決戦に参加ナベシ」と云ふ電文に改めて打電せられた

Q 軍司令部の参謀其の他1/3のものを脱出せしめた後其の他の將兵を23/5になつて司令官の自決場所を獲得する爲山頂攻撃をさせたのは矛盾しないか

A 多少突撃部隊にその様な精神感作が見えた
此の突撃部隊は軍司令部の最後を飾ることがその主眼であつた

○第三十二軍司令官

陸軍中將 牛島

満

辭世の歌（昭二〇、六、二二）

矢弾つき天地染めて散るとても天かけりつつみ國まもらむ
秋待たで枯れゆく島の青草のみ國の春によみがえらなむ

○第三十二軍參謀長

陸軍中將 長

勇

辭世の詩（前同）

醜敵締帶南西地 飛機滿空船壓海
敢闘九旬一夢裡 萬骨枯盡走天外

○沖縄根據地除司令官

海軍少將 太田

實

辭世の歌（前同）

身はたとへ沖縄野邊にくちるとも護りつつけん大和島根を